

令和5年度 東京都立東高等学校 学校経営報告

1 今年度の取組目標等に関する自己評価

(1) 学習指導

授業を学習指導の根幹とし、生徒・教職員が一体となった授業を展開しながら、教科間連携を充実させ「確かな学力」を育成する「知の統合」へとつなげることを目標に掲げ、日々の授業を展開することができた。

- ①授業を学力伸張の第一の場とした、生徒と教員が協働した授業は概ね展開できた。
- ②授業においては、双方向的な対話による学びの場面が増えてきてはいるが、学年、クラス、教科によって一方通行的授業が一部残っている。
- ③観点別評価が2年目となったこともあり、指導と評価の一体化は進んだ。今後は、より効果的な評価事例を多く収集し活用していくことが必要である。
- ④研究授業は若手を中心に計画的に実施し、多くの教員が研修に参加した。今後は、模範授業等の導入や、日常的な相互授業参観を活性化したい。
- ⑤教科別には教科内での授業力向上に向けた取り組み(相互授業参観)は行ったが、授業力や学力向上をテーマとした教科主任会の開催までには至らなかった。
- ⑥自主的学習の習慣化については以下のとおりである。

【目標】 1学年：60分以上、2学年：80分以上、3学年：180分以上

【成果】 1学年：52分、2学年：60分、3学年：130分

生徒・教員ともに「自主的学習」の意味・意義を理解し、「すきま時間の活用」など積極的に取り入れ、習慣化につなげることが、今後取り組むべき継続的な課題である。

- ⑦「生徒による授業評価」を実施した。授業満足度については以下のとおりである。

【目標】 生徒の授業満足度（各教科） 90%以上

【成果】 生徒の授業満足度（各教科） 79%

- ⑧オンライン学習への対応準備はできた。段階的に「一人一台端末」が進んでいく中で、デジタル教材の効果的活用を促進する。

(2) 進路指導

自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できるようにし、生徒一人一人の進路希望を実現させる。そのため、全ての生徒の意識を「行ける大学に進学する」から脱却させ「行きたい大学に進学する」に高める。

【目標】 進路決定率 90%以上

- ①教科担任・学年・部活動顧問等で情報を共有し、進路実現を支援する。模試分析会や個別ケース会議等で生徒情報を共有し、生徒の課題に応じた指導を行う。

【目標】 国公立大学及び難関私立大学（早慶上理）現役合格者数 5人以上

私立大学（GMARCH）現役合格者数 35人以上

私立大学（日東駒専）現役合格者数 100人以上

四年制大学現役進路率 75%以上

【成果】進路決定率 90%強

模試分析会：1・2学年 8/31(木)10:00 12/13(水)16:00

3学年 6/29(木)16:00 ※Compass 研修会兼ねる

8/31(木)10:00 11/28(火)16:00

国公立大学及び難関私立大学（早慶上理）現役合格者数 0人

私立大学（GMARCH）現役合格者数 25人

私立大学（日東駒専）現役合格者数 63人

四年制大学現役進路率 85.9%

【課題】来年度から教育課程が変更になるため、生徒への情報提供、指導をしていく。そのため、模試分析会等で教員へ情報を共有し、生徒の課題に応じた指導を行う。

②学年集会等、集団となる場を効果的に活用し、高い志望をあきらめさせない指導を継続する。

【成果】

1・2学年：7/14（金）12/15（金）進路ガイダンス 3/11（月）卒業生ガイダンス

3学年：4/22（土）保護者会 5/15（月）・9/1（金）指定校ガイダンス

7/14（金）進路ガイダンス

【課題】受験環境が年々変化しているため、外部人材を活用した進路ガイダンスや講話を実施し、適切な時期に適切な指導を行っていく。

③個別面談においては、実施前に各学年が生徒情報を共有し、意図的計画的で丁寧に実施する。

④各教科は、長期休業日等に進路実現に向けた講習を、組織的に計画して実施する。

【目標】 夏期講習 80講座・400時間以上

【成果】 夏期講習 70講座・190時間

### （3）生活指導

教職員が一人一人の生徒に寄り添いながら、生徒が互いに助け合い高め合う集団を形成する一助となることのできた。

①教員が毎朝登校時の校門観察・指導を行いながら、生徒の規範意識の向上のみならず、一人一人の生徒の様子を確認しながら、生徒と教員のコミュニケーションを円滑にすることができた。

②主に行事や部活動を通して、生徒の自主性を重んずることにより、本校生徒の良き特質である「他者への思いやり」を一層高めることができた。

③挨拶の励行、頭髪・身だしなみ指導、自転車乗車マナー・駐輪指導には一定の成果があったが、遅刻防止については課題を残した。

【目標】 年間遅刻延べ回数 1,500回以内

【成果】 年間遅刻延べ回数 5,723回

基本的な生活習慣の確立は、充実した高校生活を送るうえで欠かせない。

- ④自転車の安全で適正な利用を目指し、警察と連携した安全指導や、スタントによる交通事故防止啓発の実演指導を行った。
- ⑤いじめや問題行動については適宜適切な調査と情報共有を迅速に行い、教育相談委員会やスクールカウンセラーと連携し適切に対応した。
- ⑥日常的なスクールカウンセラーと教員の連携が円滑であり、教育相談機能を高めることができた。
- ⑦インターネット・携帯電話等の適正な利用に関する全校指導を年4回実施した。
- ⑧「SOSの出し方」に関する講演会を生徒対象に実施した。
- ⑨今年度も特別支援教育コーディネーターを2名配置し、教育相談等を計画的に実施し、教育相談機能を強化することができた。

【目標】 特別支援教育に関する委員会の開催回数 10回

【成果】 特別支援教育に関する委員会の開催回数 10回

#### (4) 特別活動・部活動

- ①生徒会活動は、学校説明会の運営や校則見直しのアンケートなど活発な運営を行い、江東区民まつり、ボランティア活動など地域の活動に積極的に参加した。
- ②実行委員会を中心に、生徒が主体的に取り組む体育祭・文化祭・合唱コンクールの学校行事を再開できた。
- ③部活動について

【目標】 部活動加入率 100%

全国大会又は関東大会出場 3団体以上

都大会上位（ベスト32以内）進出 5団体以上

【成果】 部活動加入率 101%

全国大会又は関東大会出場 2団体（全国大会延べ5回）

都大会上位（ベスト32以内）進出 4団体

部活動加入については、兼部も含め高い加入率であった。

全国大会は弓道部とアーチェリー部の2団体にとどまったが、弓道部においては全国大会3回、アーチェリー部は2回と、高い成果を挙げることができた。学校HP等を活用して、活動や実績をさらに可視化する。

- ④文化・スポーツ等特別推薦入試をサッカー部3名募集が定着した。非常に多くの応募者を集めることができた。多くの部活動が上位大会に進出できるようにさらに活性化を目指す。

#### (5) 健康づくり

- ①総合的な体力向上の目標の一つとした調査結果は以下のとおり。

【目標】 東京都体力・運動能力調査の体力合計点平均値 全国平均値以上

【成果】 東京都体力・運動能力調査の体力合計点平均値 東京都平均値以上

- ②体力向上を目指す行事の一環として、マラソン大会を継続実施した。
- ③生徒のアレルギー情報を年度当初早期に共有し、アレルギーに関する基礎知識を確認した。

## (6) 募集・広報活動

①本校の教育方針や教育活動の成果等を積極的に広報できた。し、本校を第一志望とする中学生の数を増やす。

【目標】 学校見学・説明会参加者数 4,000人以上

東京都中学校長会進路対策委員会調査による第一志望生徒数 400人以上  
推薦選抜応募倍率 3.5倍以上、学力選抜応募倍率 1.8倍以上

【成果】 学校説明会参加者数 2,900人 (他に毎日対応の学校見学者あり)

東京都中学校長会進路対策委員会調査による第一志望生徒数 427人  
推薦選抜応募倍率 2.3倍、学力選抜応募倍率 1.43倍

令和6年度も学級数1増で、募集人員が多いことを考慮すると、ほぼ目標値を達成したと考える。

②全校体制で生徒募集対策活動に取り組んだ。また学校見学会及び学校説明会においては、運営、進行面で生徒が活躍した内容で実施することができた。

【目標】 学校説明会等への参加回数 全教職員1回以上

【成果】 学校説明会等への参加回数 全教職員2回

③学校見学を5回、授業公開を3回、部活動体験を2回実施した。

④学校ホームページについて、本年度サイトをリニューアルし、適時適切に発信した。

【目標】 ホームページ更新回数 150回以上

【成果】 ホームページ更新回数 140回

## (7) 学校経営・組織体制

①朝の打合せの定例化や企画調整会議の事前調整を活性化し、教職員の参画意欲を高めた。また、会議内容等の周知伝達を確実に行うことで、職員会議のスリム化を推進した。

②予算執行におけるセンター執行割合については以下のとおりで、適切な予算執行を実施できた。

【目標】 一般需要費のセンター執行割合 53%以上

【成果】 一般需要費のセンター執行割合 47%

③文化・スポーツ等特別推薦入試について、実績を検証することで改善を行った。